

1 会議名

令和元年度 第2回 阿賀野市環境審議会

2 開催日時

令和元年12月19日(木) 午後1時30分から午後3時20分

3 開催場所

阿賀野市役所「402会議室」

4 出席者(傍聴者を除く。)の氏名(敬称略)

- ・委員:田辺 正明、及川 紀久雄、波多野 千代、清水 明子、
植田 信夫、伊藤 守、渡邊 景子、(8人中 7人出席)、関川 央(欠席)
- ・事務局:山寄市民生活課長、宮嶋補佐、伊藤副参事、中山係長 (計4人)

5 議事

- (1) 阿賀野市中小河川水質調査について (公開)
- (2) 阿賀野市井戸水(地下水)調査について (公開)
- (3) その他 (公開)

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

なし

8 発言の内容 (以下より)

開会・あいさつ 事務局(山寄市民生活課長)

本日の会議は、阿賀野市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開とする旨、告げる。次に、傍聴者はないこと確認する。会議中は、録音すること、議事録あるいは議事内容については後日公開し、阿賀野市のホームページ等で掲載することの了承を得る。

議 事

(1) 会長・副会長の選出について

事務局(山寄市民生活課長)

会長・副会長の選出に入ります。会長・副会長の選出につきましては、審議会規則第2条第2項の規定により「委員の互選により定める。」とあります。従いまして、委員皆様からの互選により選出をお

願います。

会長・副会長の選出について、ご提案はありませんでしょうか。

植田委員

環境審議会会長には、経験豊富な及川委員、副会長には、知見の豊富な田辺委員にお願いしてはいかがかと思えます。

山寄市民生活課長

会長には、及川委員、副会長には、田辺委員とのご意見がありました。いかがでしょうか。

— 全員 異議なし —

山寄市民生活課長

異議なしということです。会長に及川紀久雄委員、副会長に田辺正明委員と決定させていただきます。会長・副会長が決まりました。今後の進行については、及川会長にお願いします。

— 及川会長、田辺副会長は、前席に移動し、それぞれ、就任のあいさつを行った。 —

及川会長

それでは議事に入ります。6 審議事項の(1)阿賀野市中小河川水質調査について、提案いたします。事務局の説明をお願いします。

事務局(中山係長)：

— 阿賀野市中小河川水質調査について、説明する。 —

及川会長

ありがとうございました。平成2年度以降の阿賀野市中小河川水質調査について、変更案が示されましたが、皆様のご意見を伺いたいと思います。

その前に、一つ確認です。調査地点を減らすという目的は、同じような水質を持っている所は減らしたり廃止したりするということでしょうか。それとも、コストの問題もあり効率的に調査を行うということでしょうか。

中山係長

一つは会長からお話があったようにコストの問題があります。何のために調査をやるのかということ一度検討が必要なのではないかという議論が庁内にありました。そこで、今までの調査結果と調査の意味を改めて精査した結果、必要不可欠な調査とそこまでやる必要がない所を検証した結果が今回提案

した改正案になります。

波多野委員

Bの11、鶉の木橋に、丸印が二つ付いていましたけれどもこれが変更になるのですね。

中山係長

Bの11が変更になります。

波多野委員

Bの11が変更になり、Bの12はそのままという事は、(上流の)化学工場や環境センターの近くを通る川の交わった所は残していくのですか。

中山係長

化学工場の下流は折居川という本流になりますが、今回、廃止を考えているのは、折居川の支流、塚田川という川の「B11」鶉の木橋となります。基本的には合流する前の地点でそれぞれ採水をしております。

波多野委員

合流する前なのですね。ここを通年でやっていたけれども一般監視にするということですね。

中山係長

1箇所だけですね。支流の方をそうしたいと思います。

波多野委員

化学工場の下流ということで、ちょっと心配なのですけど。

中山係長

それは折居川に流れて、今回廃止しないB12となりますので、監視は残ります。

波多野委員

環境センターの方から流れていく。勝屋工業団地から流れていく。

中山係長

勝屋工業団地や化学工場は折居川に流れていきますので、縮小しない川となります。

波多野委員

縮小するという判断は、ベテランのあなたが見て正解ですか。

中山係長

正解というか、委員から話があったように、例えば折居川の調査地点を塚田川の合流点よりも南側にするっていう考えもありましたが、今までやっていた所の橋で確認することで大丈夫なのかなと考えてお

ります。なお、環境センターは別途、環境センターでセンターの排水を絶えず調査しております。

波多野委員

化学工場って何を作っているのですか。

中山係長

半導体の洗浄剤を作っている会社になります。化学物質を排水していないので、問題はないです。この工場は半導体のホコリをとるための特別な洗浄剤を作るために、水のいい五頭山の麓に工場を設置したと聞いています。

波多野委員

それが、福島潟に流れていくのですか。

中山係長

工場が川のほとりにあるという事だけで、工場から川に排水しているわけではありません。

波多野委員

大丈夫なのですか。

中山係長

それは逆にうちというよりも建設課の方で監視はしているので問題ないと思います。

波多野委員

わかりました。

伊藤副参事

笹神村役場時代に環境担当だった時期がありまして、この工場の見学をする機会に恵まれました。普通、化学反応を起こして製品を作る際には、化学反応を起こした際の処理水しか処理しないと思うのですが、この工場では、空気中に反応した気体も上方からシャワーで水に流して、再処理しておりました。さすが世界的なアメリカ資本の会社だなと驚いたことを今でも覚えています。そのころは、毎月、上流と下流で、工場独自でも検査をやっておりました。県の環境センターもこの工場への監視は行っていると思います。工場ができて三十数年になりますが、環境には細心の注意を払っているということは確かです。

及川会長

この工場が、現在の位置に進出する際に、当時、アメリカから私の所に電話がありまして、衛生管理・環境管理の責任者を地元から採用したいので、適任者を紹介してほしい。そういう話がありました。たぶん、一度工場に伺っていると思います。この工場自身も排水は出さないけれども工場自身でチェックし

ているということですね。

中山係長

はい。それは法律にのっとってやっています。

及川会長

工場自身もしっかり管理しているということですね。市の環境センターの方は独自に市の方できちっとやっているの、中小河川の水質検査では、割愛してもいいのではないかということですよ。植田委員、新発田環境センター長の立場としていかがでしょうか。

植田委員

前回この審議会で、中小河川水質調査というのを胎内市から阿賀野市まで協同でやっておりまして、その事務局を私ども環境センターが担っています。その立場からいうと、なるべく回数・地点は維持していただきたいという要望はあります。だけれども、財政的な面もありますので、合理化するのはやむを得ないという事を申し上げてまいりました。事前配布されたこの案は思ったより回数・地点とも維持されているなどと思ひまして、この削減幅であればやむを得ないのだろうなと思った所です。

及川会長

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

田辺副会長

削減の話ではなくて、何のために観測しているのかという視点が重要かと思います。阿賀野市環境計画の立ち上げたころから思っているのですが、継続的に観察することで、何か急に大きくなったり、あるいは徐々に減ったりしているデータを見ながら、対策を講じ、その対策による効果が出ているのかを見るために、検査しているのではないのかなと思います。今の場所の話とか結果の話だけで、実はこういう対策を講じて減りましたとか。例えば阿賀野市であれば下水道が整備され進捗率がどんどん上がってきたので、昔と比べこの水質はどんどんよくなってきた。だから監視はもういいのではという話が必要で、お金の話しよりも、対策によって効果が表れたので、減らすというのが本筋のような気がするのですが、どうでしょうか。

中山係長

おっしゃる通りです。そもそも上流に定点として思えるような所がないのに調査している所の回数や地点を減らしたいという考えです。

過去の記録をみる限り、一部大腸菌群数が多いのが気になりますが、その要因は、水量が少なく川が淀んでいたために、大腸菌が増えている特殊な状況なのです。ただ、全部止めてしまうのは、何か

あった時に対応が難しくなりますので、回数を減らし年4回は監視を続けて、数値が上がった時に、発生源を確認する等の対応ができるような形に持っていきたいと考えています。

今回、年12回から4回に減らす地点は、上流に汚染源の無い山際の集落、河川の合流点で具体的な評価がしづらいような地点を対象といたしました。

田辺副会長

大腸菌の話で、数値が増えた原因がよく分からないけど多いという説明されていましたが、先般の審議会で、畜産の施設の周辺の方から、悪臭の苦情がきている話がありましたが、今回、回数を減らす地点に畜産の盛んな六野瀬排水路の調査地点なども対象になっていますが。

中山係長

大通川は、水原の市街地から瓢湖の横を通って水原の市街地を抜ける川となりますので、生活雑排水が影響していると思われます。

田辺副会長

Bの32・31の大腸菌の多い原因が糞尿だと想定できるのであれば、何かしら改善していかなければならないこととなります。原因と対策はセットだと思いますので、今後何か考えていくのか、あるいはBODしか検証しないというような考え方なのでしょうか。

中山係長

安田の畜産関係は糞便性大腸菌の要因が、畜産由来かどうかという事があるので、窒素をあわせて評価をしています。実際にこの数字をもとに、原因となっている牧場には、規制数値を超えないような対策を取るよう指導しております。

及川会長

瓢湖に関わる大通川とその上流の白川堰ですが、大通川の調査地点はBODやMPNの値が高く、白川堰は高くないという状況は、あまり思いたくないけれども瓢湖の汚染による影響でしょうか。もしそうならば、瓢湖に入る前の白川堰は縮小せずに、常時監視とした方がよいのではと思うのですが。いかがなものでしょうか。

中山係長

瓢湖の排水は、大通川に直接流出していません。私は、環境係に来る前、瓢湖の管理事務所に3年おりましたが、瓢湖を通った水は、市街の東側を通って別ルートに流れています。最終的には大通川の支流から福島潟へ排水はする形になりますが、大通川の数値が悪化しているのは、市街地の生活雑排水が要因と考えています。下水道は整備されましたが、様々な理由でつないでない所も結構あるようで

すので。

及川会長

下水道の普及率がちょっと問題ということですね。

中山係長

あと川の構造がつまりやすいという所がありまして。

及川会長

わかりました。ちょっとそのあたりが心配だったのですが、瓢湖の排水が原因でないということですね。いかがでしょうか。今回の提案につきまして廃止及び縮小に関して賛同してよろしいでしょうか。

渡邊委員

調査地点の削減や調査回数を少なくするというのは地元の皆さんはもうご存知なのではないでしょうか。了解をとられるのでしょうか。今何箇所かこの所へ年4回にするというような事で調査回数を減らすというような事に対しては地元の皆さんも知っていて、それなら納得するというようなお話になっているのでしょうか。

中山係長

直接市民の方に、水質調査のご意見を頂くような場は設けておりません。

渡邊委員

そうなのですね。であれば、市報などに、この地点をこういう理由で減らしますというようなことを載せて頂いた方がよろしいかと思えます。私は勝屋に住んで、要するにロームアンドハースの地元におりまして、なんとなく心配だなという気持ちがあります。この工場の周辺の水質調査結果を公表すれば、皆さんが安心できる材料になると思えますので、ぜひ、水質の数値が問題なく推移していることを市報などで、載せていただければと思います。

中山係長

周知という事ですね。それはさせていただきたいと思えます。

及川会長

調査結果とその理由等についてお知らせしていただければ安心できるのではないかと思います。その他に何かありませんか。

植田委員

前回の審議会で申し上げた話と同じになりますが、環境基準類型指定されていない区間について「達成」という表現で資料が作られています。指定されていない区間について「達成」という表し方はないと

思うので、今後の資料の作り方として、阿賀野市の独自基準として、一番下の尺度で照らして大丈夫ですよというような注釈をいれた方がいいのかなと思います。

逆に安野川と都辺田川は全域が類型Aというふうに考えられるので、そこの部分にはその尺度を使ってもいいのかなと思います。

及川会長

様々な意見が出ましたが、事務局ではこれらの意見を踏まえ、来年度以降、中小河川水質調査に当たっていただきたいと考えます。

■及川会長

次に7 報告事項の(1)阿賀野市井戸台帳整備に係る地下水利用実態調査概要について 事務局の説明をお願いします。

事務局(伊藤副参事):

—阿賀野市井戸台帳整備に係る地下水利用実態調査概要について、説明する。—

及川会長

非常に詳細なデータをとられたという事で非常に有り難い事ですよ。特に災害時あるいは、ヒ素の問題が起きた時には、これを活用した本格的な調査をすればいいわけですね。ところで、消雪用が1番多いですね。私これよく分からないですけども、この地域は地盤沈下って問題はないのですか。

伊藤副参事

聞かないです。

及川会長

聞かないですか。

伊藤副参事

福島潟の方へ行くと若干あるかもしれませんが。広報誌とかでも一度もくみ過ぎには注意しようといった記事は出た事はないので、雪の量も上越・中越の方と比べますといっぱい降る訳ではないので、そのような心配はないかと思います。

渡邊委員

私の家も井戸をもっております。2年に1回水質検査をしております。2年前に、たぶん生活雑排水が入ってきたのだと思いますが、保健所から大腸菌の数がものすごいので、突然だったのですけれど飲まないように電話がありました。家は井戸だけじゃなくて水道もあるのですが、おじいちゃんなんかは、

井戸の方がおいしいって言ってずっと飲んでいたので。2年前に20m位掘ったら新しい水が出て来てそれを使って、また2年に1回ずつ検査をしてもらっています。この間、検査して大丈夫とお墨付きをもらいました。どっから生活雑排水が入り込んでくるか分かりません。地下水の飲料は危険が伴いますので、一昨年までは大丈夫だったけれども、突然、飲料に適さない水になるという事もあると思うのです。2年に1回で1万1千円なのです。毎年毎年やらなくてもいいと思うのですけれども2年に1回か、3年に1回くらいは、地下水を飲料している場合は検査をしましょうといったことを市の広報等で周知していただけるといいかなと思います。

植田委員

県としては、この調査は、大変有り難いと思っております。県で計画的に毎年新しい井戸を選んで、県の方で汚染はないかなと順次調査を行っております。たまに、汚染水の井戸があると、周辺の井戸は大丈夫なのか、井戸水を飲んでいる人はいないかを確認しなければなりません。その点で、この調査結果は非常に重要な情報になります。地下水の汚染が分かってから、それから調べ始めたのでは遅いので、このようにあらかじめ調べていただくのは非常に有り難いです。それから、土壤汚染対策。豊洲でも大きな問題になりましたけども、土壤汚染対策法というのができました。事業所が廃止になる時に、土壤汚染があるか否かを検査していただいているのですが、土壤汚染があった時も、市町村に周囲に飲料井戸ありますかと確認いたしておりますので、この点においても、非常に有意義な調査だと思っております。

及川会長

ありがとうございました。これは全部、台帳化されているのでしょうか。

伊藤副参事

全データを自治会ごとに、わかるように入力してあります。水原地区の〇〇自治会って選べば、その自治会で井戸を持っている世帯が分かるような形で整理してあります。

山寄課長

まだ地図に落とすまでは、いってないのですけれど。

及川会長

台帳があれば、何かの場合いつもそれに対応できる訳ですから、外の市町村にはない調査だったと思います。

伊藤副参事

私は他の市町村は、こういったデータは、全ての市町村が持っていると同っていたのですが。

植田委員

確かにあるようです。ただ、あっても古い情報ですと本当に確かなのかというのがありますので、今回、全市で調査していただいたことは、県としても非常にありがたかったです。

及川会長

千何人の回答があったというのはすごいですよね。

田辺副会長

平成28・29年度に実施して、30年度は休んで、今年度実施して、全世帯網羅したという事ですね。回答率はどれくらいでしたか。

伊藤副参事

今回調査した令和元年度の調査は、平成28・29年度調査地域を除いた全世帯を対象に、自治会経由でアンケート用紙を配布し、約1千通、1割の方から回答がありました。井戸を持ってない世帯は、回答しなくていいといった考え方で調査いたしました。ですから、持っている人のうち何通回答があったというデータはありません。ただ、全世帯数で換算いたしますと、回収率は約10%となっています。

田辺副会長

すると、回答してないけど実は井戸の水を飲んでいる方も少なからずいらっしゃるという事ですよね。であればそれを踏まえた形で、何かあった時にはきちんと広報はしないとイケない。そういう事ですよ。

伊藤副参事

その通りです。

及川会長

今の件は報告として、非常にいい調査をしていただいたということで、有り難いことだと思います。

■及川会長

次の8その他 (1)一般廃棄物処理の概況について、事務局お願いいたします。

●伊藤副参事

お手元の「阿賀野市一般廃棄物の処理の状況」は、毎年、作成している物です。参考までに委員の皆様方にも配布させていただきました。今後は、毎年、皆様方に配布いたしますので、よろしく願いいたします。

■及川会長

ありがとうございました。これについて何が、ございませんでしょうか。

渡邊委員

私、新しいごみ焼却施設の会議に加わらせていただき、五泉市・阿賀町の皆様方と新しいごみ処理場はどういったものかということを検討してまいりました。その過程で、様々な施設を見学し、プラスチックも全部燃やしてしまうという三条の施設やとっても細かく分別処理している所などを見学し大変参考になりました。お年をめしておられる方は、「これ以上はもう出来ねえね。」と考える方もいらっしゃる、市民の皆さんに同じ分別方法で分けてくださいねっていうのは、大変なことなのだと感じました。

もう一つは、最近新潟市のことですが、公民館などの公共施設に小型家電の回収ボックスが設置してあります。今まで、そのボックスに入る大きさの電池やバッテリーなどは、回収して再利用しますと言っていたのですが、12月からは、ボックスに入ればパソコンを入れてもいいという事になったのです。私、パソコンは家電リサイクル法で処理することになり、お金もかかるし面倒くさいなというふうに思っていて、家にあるものをそのままにしておいたのですが、それも出せるようになりました。このようにリサイクルの方法が少しずつ変わり、順次見直されていかれるのがいいかなと思っています。

及川会長

パソコンをリサイクルに出す際は、ハードディスクを自分で処理してから出さないと…。大変ですね。

渡邊委員

バッテリーとか入っていても良いそうです。

波多野委員

本日、亀田の方からまいりましたら、阿賀野市の新しい団地にお家が沢山立っていて、阿賀野市もこれから人口が増える方向に行くのではないかなと思いました。新しい焼却場は、それらの問題も考えられているのだということがよく分かりました。亀田もどんどん新しい家が建っているような状況ですので、その影響が阿賀野市にも及び、空き地もみんな住宅になっちゃったら、阿賀野市も沢山のゴミの処理で大変なことになるのかなと思いました。

行政の仕事では、ごみ処理問題が一番ご苦労されて、またそこが一番、要になって機能していかないと、色々な場面で困った事が起きて来ると思いますが、その見込みなどは、どのように考えていらっしゃいますか。

山寄課長

新しいごみ処理施設は、五泉市と阿賀町・阿賀野市が共同で作ります。12月4日、途中経過ではありません。

すが、議会全員協議会で説明をさせていただきました。まず、ごみの分別は、新しい施設ですので、今現在、二通りある市内の分別方法を統一する必要があります。水原・京ヶ瀬・笹神地区の分別方法をベースに、旧安田地区が合わせる形になりますので、安田地区の方は新たにごみの分別区分が増えるかもしれません。渡邊委員の話ではないですが、安田地区の高齢の方の負担を考慮していきたいと考えています。

施設の規模は、規模がもっと縮小できないかとぎりぎりまで話を詰めています。現在、基本設計が終わり、実施設計を来年あげて、入札ということになります。今までのごみの量とこれからの人口と世帯数の推移を社人研の推移に基づいて、ごみの量を推計すると、事業開始時にごみの量が最大と考えていますので、それに合わせた規模に縮小して建設費のコストを抑えるようなことを検討しております。必要最小限の施設を作って運営していくという事になっていくかと思えます。

また、三市町の所管レベルで毎月話し合いを行っておりますが、その中で、阿賀町から高齢世帯で一人暮らしをされている方とか高齢の夫婦で住んでらっしゃる方が、そもそもごみ出しが大変になってきたという問題提起がありました。分別が増えれば、出しに行く回数も増える。冬場は特に足場も悪いしというような話しが出ております。

実は阿賀町・阿賀野市・五泉市で1人当たりのごみの排出量がだいぶ違います。阿賀野市が一番優等生という訳ではないのですが、1人当たりの排出量が一番少ないのです。県平均よりも下回っています。

波多野委員

全国よりは悪い。

山寄課長

そうなのです。ごみの有料化してない五泉市は、燃えるごみは好きなだけ出してもいいという事になっております。阿賀野市はシール制、阿賀町はごみ袋を買っています。阿賀野市と五泉市を比べると1人当たりで年間100kg位、排出量で差があります。五泉市の一人当たりの排出量が、阿賀野市と同じ位の排出量になれば、新しいごみ焼却場ももっと小さくて済むという考えもあるのですが、他市の事ですので…。そういう試算を基に、ごみ焼却場の設計を検討している状況です。

波多野委員

何もかも燃すやすのではなくて分別していただいて出していただく。

山寄課長

今度は五泉市・阿賀町うちの安田もプラスチック製容器包装の分別が一つ増える事になりますので、それだけ分別が進んでいくという、細かなところもいろいろあるのですが燃えるごみの量を圧縮していく考

えです。

波多野委員

燃えるごみに関してなんですけれども、今1番問題になっているのが食品ロスの問題で、食品ロスの中でも直接廃棄がなくなるだけでもものすごく燃えるごみが減る、効果てき面なのですよね。賞味期限を正しく理解するっていうこれから運動をしていく訳なんですけれども、こちらではいかがでしょうか。

山寄課長

今回、法律ができましたので、私ども新年度の市民生活課の目玉事業の1つとして、食品ロスの削減計画を作っていきたいと考えております。どうしても作らなければならない計画ではありませんが作る予定です。

波多野委員

現実にどうなのでしょう。食品ロスに関してどんな印象を持ってらっしゃるのか。

山寄課長

そうですね。広報等での働きかけが中心になりますが、私どもいろんな部署で食品ロスの対応をしております。健康推進課は、食生活改善推進委員会が中心になって働きかけをやっています。農林課は、農業関係の団体をまとめて食品ロスの取り組みをやっております。私どもは、様々な関係団体と協調して、環境対策といった切り口で計画を作っていきたいなと思っております。あと市民生活課の懇親会の時には、残さないで食べてくださいと呼びかけております。

及川会長

いろいろと各市町村それぞれの努力で何か飲む前にビラが配られてきてね。だから、ロスをゼロにしましょう。各市町村それぞれやっています。まだいろいろあろうと思いますけれども一応報告についてはこれでよろしいでしょうか。伊藤委員と清水委員のほうから今までの今日の議事あるいは報告を含めて何かご意見ございませんでしょうか。

伊藤委員

水質調査の件について最初にその地点を設置した時にどういう基準でその場所を選定したのかっていう事が明確になっていると、次に削減していくにしても増やしていくにしてもその結果をもとにこういうふうになりましたという事が言いやすいのではないかなと思います。

及川会長

私も実は国土交通省北陸整備局の依頼で新潟県の北のはずれや、会津、福井県の大野までのいろんな河川調査の指導に当たりまして、色々な河川を歩いてきました。特に気を付けることは調査地点なので

す。ここは適切かどうかというところ。そこには県の調査地点、いろんな別の目的の調査地点もあってりして、どうしても合流地点、合流前とそれから合流地点、河川入って曲がっているような所選びますね。どっちかっていうとやはり汚染がここ、こっちから河川から汚染が入ってきてないかという調査、曲がって合流地点、よくあたるケースあるのですよ。でもなかなか調査地点を決めるのは難しいですね。やはり採水のしやすい場所っていうことも考慮しないとイケませんし、要するに採水の危険な場所、橋の真ん中から取るケースもありますしね、いろいろですけど。今皆さんはなぜ決まったかっていうのは…。

中山係長

採水箇所につきましては、私も以前から常々疑問を持っておりまして、今回、何を監視するのかを改めて考えながら、この削減案を策定した次第です。

及川会長

清水委員いかがでございましょう。

清水委員

今日の審議事項でありました河川の調査や井戸水での調査、これはほんとに私たちが暮らす生活の蛇口から出る水が安心・安全で私たちのほんとに暮らしの安全の源の事であると思うので、ほんとにこのデータを出して下さって廃止・縮小っていう事にもなる所もあると思うのですが、引き続き問題がでないようにしてほしいと思います。ごみ問題ですけどやっぱり土にかえるようなものは、まだいいと思うのですけれど、そうでないプラスチックなどが、ここ20～30年前からぐっと増えてきたわけでありますから、県の生活学校でも話題になりますが、マイクロチップス、海洋マイクロチップスとかそういう事がとても心配ですね。それが今もう川にも流れているとか水道からも出る、水道水の中にもほんとに微量の微量だそうですけども出ているという研究者の発表みたいなのあるということも聞きます。その辺のマイクロチップスみたいなのはどうでしょうか。わかりますか。

山寄課長

我々のほうでは把握できてないのですけども国の方の資料とかをみますと、日本ではプラスチックが海洋に出ていく8割は河川から流出していると。不法投棄されているプラごみが雨で流れて排水にいつて河川から海に出ていると聞いております。この間も水原地区の無為信寺ってお寺があるのですけどもその所に、油がちょっと流出したって事で油を止めるオイルフェンスを施したところ、プラスチックがいっぱいたまっていました。これだけのプラスチックが駒林川に流れていることを目に見える形で実感できました。我々、環境サイドでは不法投棄の見回りと啓発、回収に努めていくという地道な活動ではありますけども市町村ができるところはそういうところなのかなと思っています。

植田委員

補足にもならないのですが、これは新しいテーマですので、環境省とか学者の先生方が立ち上げたところでした、まだ実際自治体でも測っていないところですよ。県レベルでもですね、関東の大学の先生を呼んで、こういうふうにして測定している事例などの勉強会を始めたところです。環境省が昔から順次規制項目を増やしていくのですが、大学なり試験的に研究する自治体が増えてきた中でデータがだんだん多くなってくると、それを基に環境省が規制を作る。そこから実際に、全自治体にやっってくださいという流れになるので、計画的に測定するまでは、まだ何年もかかる感じかなと思います。今は先進的な大学の先生が、学術的に測っているレベルだと思います。県内のデータはほとんどないかなと思います。

及川会長

貴重なご意見ありがとうございました。見渡す限り山紫水明の素晴らしい阿賀野市ですけどもちょっと足元を見れば今おっしゃったようなマイクロプラスチックのような問題、それから地球温暖化、炭素の排水路の使用と排水路の削減、いろんな課題、食品ロスの問題、これも非常に大きな問題です。その課題が非常に多ございます。ぜひ環境当局としまして、そのような課題にも少しずつ取り組んで、この審議会でもおおいにその内容をもみまして、従来の環境基準だけに限らず、そういう形の内容もやっていっていただければかなと思います。

用意された議事については以上ですが、ほかに何かございませんか？

—なしの声あり—

ないようですので、議事を全て終わり、今後の運営について、事務局に引き継ぎます。

●山寄課長

只今は、慎重なご審議をいただき、大変ありがとうございました。

閉会のあいさつについては、田辺副会長よりお願いいたします。

5. 閉会あいさつ

◆田辺副会長

以上で、本日の審議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。